

# 蒲郡駅前華やかにイルミ点灯

## 来年2月末まで 海の生き物のオブジェも



駅前が始まったイルミネーション。奥にヒカロープを使った海の生物のオブジェ (蒲郡駅南口で)

蒲郡市のJR蒲郡駅周辺で恒例のイルミネーションの点灯が始まった。今年のは光るロープ「ヒカロープ」で作られた海の生き物のオブジェが加わり、ツリー型の電飾とともに駅前を華やかにしている。来年2月末まで。(多田羅有美)



照らし出されたニッポンチャレンジ号 (同)

駅の南側は「海の街」をイメージし、街路樹に青や白色の電球が輝いている。常設展示されている大型ヨット「ニッポンチャレンジ号」も青色に照らし出された。新たに加わったヒカロープは、市内の三栄製綱が海水作業

用に使われている光る繊維ロープ。同市生命(いのち)の海洋科学館であったワークショップで、参加した親子らがイルカやクジラなど8点のオブジェを完成させた。

北駅前広場やナヒテラス(市観光交流センター)周辺は、街に製造している光る繊維ロープ。同市生命(いのち)の海洋科学館であったワークショップで、参加した親子らがイルカやクジラなど8点のオブジェを完成させた。

# 「STOP! コロナ差別」宣言

## 蒲郡市がPR活動 10日から賛同メンバーを募集



「STOP! コロナ差別」宣言に賛同を呼びかけるポスター

新型コロナウイルスに絡む差別や偏見をなくしようと、蒲郡市は10日の世界人権デーに合わせて「STOP! コロナ差別」を宣言する。市がこのほど、新型コロナウイルスに関する市民アンケート調査を行ったところ、400人ほどの回答があり、約1割が「差別を感じる」と答えた。ワクチンを打っていない人に対する差別や、医療従事者への偏見など、非感染者も含めて差別に苦しむ人が一定数いることが分かったという。そこで市は、新型コロナウイルスの終息が見通せない中、家庭、学校、職場などで生まれやすい差別の解消に取り組むことにした。職員が啓発チラシやマスクを街頭で配布し、独自に動画を制作するなどして周知を図りたい考えだ。

市は宣言に合わせて、賛同するメンバーを募集する。啓発ポスターの掲示などで協力を求める。市内にある企業や団体、個人が対象。宣言日の10日からホームページで登録を受け付ける。問い合わせは、市ワクチン接種推進室(電話0533(56)235)まで。

(多田羅有美)

鈴木寿明市長は「あつてはならない差別。みんなが安心して暮らすため、理解が広まってほしい」と話した。

# 予算委の理事に大抜てき

## 30代は異例 4本柱の補正予算も説明

### 本気で決意語る 今枝衆院議員



衆院予算委理事となり、補正予算案について説明する今枝氏(東愛知新聞社)

6日に召集される第207回臨時国会で、自民党の今枝宗一郎衆院議員(愛知14区)が衆院予算委員会の理事に選ばれる。4日、東愛知新聞社に報告した。【山田一晶】

予算委の理事はベテランぞろい。国民の生活に直結し、税金の使途を決める場とあって今枝氏は「大変な重責だ。拘束時間も長いが全力を尽くす」と話した。30代での抜てきは異例という。一方、今枝氏は臨時国会で議論される補正予算についても説明した。岸田文雄内閣は「新型コロナウイルスの感染拡大防止」「社会経済活動の再開と次なる危機への備え」「新しい資本主義」の起動力「防災・減災、国土強靱(きょうじん)化推進」の4本柱に沿って政策を進める。一般会計歳出は35兆9800億

円と補正予算としては過去最大規模。このうち、約9割に当たる31兆5627億円が経済対策関連となっている。オミクロン株も視野にコロナ対策。今枝氏によると、オミクロン株の拡大が懸念されるコロナ対策として医療提供体制の確保などに4兆4783億円。病床を1.3倍にし、ワクチンの3回目接種の前倒し、内服薬の確保などを進める。経済支援としては、事業者向けの「事業復活支援金」に2兆8032億円が盛り込まれている。最大で250万円が支給される。今枝氏は「役所や学校などで給付を申請できる。このような制度があることを知ってもらい、コロナを乗り越えてほしい」と語った。臨時国会では経済対策、オミクロン株への対応などをめぐり与野党が論戦を交わす。会期は21日までの16日間。

され、対象は売上が3割減った事業者にも拡大している。雇用調整助成金の特別措置を延長する。一方、コロナ対応で雇用調整助成金の支給がかさみ、枯渇が懸念されていた雇用保険の財源に1.7兆円を投入する。貧困対策としては、住民税非課税世帯への10万円給付、学生などの支援などが含まれている。また、一般世帯に対しては、マイナポイントを計2万円分、付与する予定としている。ポイント利用によって、地域経済の回復を目指すとしている。

### 今秋退官した前蒲郡署長 小池勝孝さん(60)

# 「熱い思い」後輩に託し

蒲郡署の署長を務めていた小池勝孝さん(60)が今秋、41年に及ぶ警察官人生に幕を下ろした。振り返ると、2008年に岡崎市の東名高速道路で発生したバスジャック事件など数々の凶悪事件を解決に導いてきた。こうした経験を次の世代に伝えようと蒲郡署長だった1年間、10回にわたり署員向けの講座を開いてきた。小池さんは「自慢話になってしまう部分もあるが、これからの警察を背負う世代に少しでも自分の経験を伝え、何かの役に立ててくれたら」と思いを込める。

【森田采花】

「毎日変化があり、人た。他愛もない話を盛り込みに立つ仕事があった。自然と入り込んだ。署内で開いた署員向け講座では、誘拐事件捜査や外国人犯罪による海外捜査などの捜査手法、容疑者の取り調べや職務質問の際の技術などテーマが多岐にわたる。自身

の経験に基づき、語りかけてきた。10月13日であった最後の講座には多くの署員が詰めかけ、その時に印象深い事件は小池さんが機動捜査隊にいた08年、岡崎市の東名高速道路上で発生した少年



こいけ・まさたか 1980年県警察学校に入校。わずか6年で巡査部長に昇任した。94年には県警捜査1課に配属となり、数多くの凶悪犯罪を担当してきた。2020年3月からは蒲郡署長として最後の任務を全うし、今秋で退官した。

り込み、興奮する少年に「話を聞くから」と優しく話しかけると、少年のこわ張った顔が少し緩んだ気がしたという。その後の交渉は円滑に進み、乗員・乗客11人にけがはなかった。事件の容疑者と話すときは、話題や言葉を慎重に選ぶことを心がけてきた。講座では「どんな話題だったら耳を傾けるか、どんな言葉だったら納得してもらえるかを考えなければならぬ。そのためには日ごろから本を読んだりドラマを見たり、引き出しを増やして」と署員に語りかける。

### 東日

## ボートクルージングで三河湾巡る

### 13日まで参加者を募集

海・みなど・蒲郡実行委員会(小田泰久実行委員長)は、18日に蒲郡市沖の三河湾を巡る「ボートクルージング」の参加者を募集している。クルーズは午前11時、午後1時、同3時、同5時の計4回。いずれも1時間程度。市内海陽町のラグナマリーナから出航する。各回の定員は3家族まで。13日までに市公式ホームページから申し込み。応募者多数の場合は抽選を行う。

問い合わせは、海・みなど・蒲郡実行委員会事務局(市企画政策課内) 電話 05333(66)1162まで。

### 東愛知

## タガログ語会話教室

蒲郡国際交流協会、来月の参加者を募集



タガログ語会話教室を紹介する市職員(蒲郡市役所で)

蒲郡国際交流協会は、来年1月に開く「タガログ語会話教室」の参加者を募集している。市内には11月1日現在で3178人の外国人市民が暮らしている。その中でもフィリピン国籍の市民は1481人と、最も多い割合を占めている。同交流協会ではフィリピンの文化や生活を市民に理解してもらおうと、公用語として使われているタガログ語に触れる機会を設けた。

協会事務局を務める市職員の阿知和さんは「タガログ語を学んでフィリピンについて考えてほしい」と話した。時間は午前10時から11時まで。場所は市民会館。対象は、市内在住または在勤の社会人や学生。参加費は教材費を含めて2000円。参加希望者は市協働まちづくり課へ電話(05333、66・1179)または直接窓口で申し込む。【林大朗】

### 東日

## 「がましん」ニュービジネスネット 中小企業への支援施策を学ぶ

蒲郡信用金庫(竹田知史理事長)の取引先企業でつくる「がましんニュービジネスネット」(藤原康会長)は1日、蒲郡市神明町の本店で本年度の定時総会と講演会を開いた。

藤原会長は、予定していた事業が新型コロナウイルスの影響で中止または延期されている現状を報告。それを補うため、会員に図書カードを配布し書籍の購入をサポートしたと説明した。今後は感染状況を見ながら「対面での講演会や経営セミナーを積極的に行いたい」と話した。

続いて、経済産業省中部経済産業局の阿知和実子さんが「中小企業支援施策」をテーマに講演。会員約50人が参加した。

阿知和さんは政府の補正予算案のうち、中小企業に関連する事業について説明した。事業再構築補助金の事業計画書作成のポイントや、新たに創設される「事業復活支援金」、経営計画作成の無料アプリ「経営計画つくるくん」などを紹介。参加者に「支援を必要とする場合は気軽に各取引店へ相談を」と呼びかけた。



講演する阿知和さん(蒲郡市・蒲郡信金本店で) = 蒲郡信金提供